

中日新聞

滋賀

2016年10月25日

近江牛フェア始まる 立命館大びわこ・くさつ食堂

大学が立地する滋賀の味を知ってもらおうと、立命館大びわこ・くさつキャンパス（草津市野路東）は二十四日、100%近江牛を使った日替わりメニューを販売する「近江牛フェア」を始めた。二十八日まで、学生や一般向けに食堂などで提供する。

二十四日は牛丼が四百五十円で販売され、四百食が昼すぎには完売した。愛知県一宮市出身で経済学部一年の沢木健一さん（18）は「柔らかくておいしい。地産地消ができていい」とおいしそうにほおぼっていた。

大学によると、同キャンパスに通う学生の九割が県外出身者。学生たちが県内の地場産品を味わうことで、地域への関心を深めてもらうのが狙い。キャンパスには二〇一八年度に食科学部が新設される予定で、食を通じて地域と学生を結ぶ取り組みを推進している。

このほか、すき焼き（千円）、焼き肉弁当（五百円）、牛すじうどん（四百円）、ステーキ（千五百円）を日替わりで提供する。それぞれ数に限りがある。焼き肉弁当と牛すじうどんは、5%増しの価格で学外の人も購入できる。



近江牛フェアで出された牛丼を食べる学生ら＝草津市野路東の立命館大びわこ・くさつキャンパスで